



# WJF 日本レイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信



No.101



日本レイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF）2018年12月発行  
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL:047-351-4464 FAX:047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp

ホームページ <http://wjf4464.la.coocan.jp/>

発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集 外山喜雄



『いま、蘇るサッチモ！！』

## IMAX3D 映画 アメリカン・ミュージック・ジャーニー公開

サッチモも、思わず天国で『オー・イエス!!!』

NY タイムス日曜版には、『サッチモ博物館』のニュース全面特集

メジャーな音楽界から上がった、サッチモ礼賛の声！！  
しかしそれにしても、こんな映画ができるようになるとは！

アメリカのメジャーな世界からサッチモ賞賛の声が起きはじめ、『名画 ドライビング・ミス・デイジー』でアカデミー賞にもノミネートされた黒人俳優、モーガン・フリーマンが制作にも噛み、解説も担当するこんな映画ができています。『アメリカン・ミュージック・ジャーニー』。なんと、テーマはレイ・アームストロングのワット・ア・ワンダフルワールド！

初回限定公開は、11月16日から2週間で終わり、一部の皆様にはしかニュースをお知らせできませんでしたが、  
新年2019年1月11日から1週間、17日までIMAX 3D・・・超迫力の画面と立体画像で  
二子玉川109シネマズ、成田IMAX デジタルシアター他で公開。

大阪 109 シネマズ エクスポジター  
名古屋 109 シネマズ 名古屋



### ジャズとアメリカ音楽とサッチモのハートが蘇る時代 ・・・『分断と対立』から『融和と共生』へ

NY タイムス 11月18日、ニューヨーク・タイムス日曜版アート & レジャーのトップにもジャズの王様サッチモの大特集！  
正に『分断と対立』の時代、次々に起こるサッチモ賞賛の声。多くの人種の融和から生まれたジャズと、レイのヒット『この素晴らしき世界』。アメリカ音楽が持つ力こそが『融和と共生』へ向かうの象徴、ということもあるでしょう！

ニューヨーク・タイムス 2018年11月18日



## ヨーロッパ難民とアフリカ黒人奴隷の 出会いから生まれた輝かしい文化 —ジャズとアメリカ音楽 原点にサッチモ！！

ジャズとアメリカ音楽は、ヨーロッパからの難民と、アフリカから拉致された黒人奴隷の出会いから生まれました。奴隷制度やアメリカの底辺に生きた人々、ある意味で『アメリカの恥部』から生まれたともいえる音楽が、世界に誇る輝かしい文化になった！！そしてアメリカ音楽の出発点にはサッチモが！そのような声が、最新のメジャーな米音楽界、映画会から起こっています！！

### サッチモのハートとたどる、アメリカ音楽史の旅！

—アメリカン・ミュージック・ジャーニー プロダクション・ノートより

なぜアメリカは、これほどまでに短期間で、ジャズ、ブルース、ゴスペル、ソウル、カントリー、ロックンロール、そしてヒップホップ&モア、、、といった普遍的で世界的な音楽を創り出すことができたのだろうか？グラミー賞ノミネートのシンガーソングライター、アロー・ブラックがこの問いの答えを見つけ出そうと全米を巡る旅に旅立ちます。

監督は、ドキュメンタリー映画の分野で名を馳せ、2度のアカデミー賞短編ドキュメンタリー賞にノミネートされた経歴を持つグレッグ・マクギリブレイ監督。名黒人俳優、モーガン・フリーマンが同監督とともに制作に参加、名ナレーションも担当している。

**心躍る全米の旅!**  
アメリカの音楽遺産を凝縮体験!!

ROADMAP TO AMERICA'S MUSIC

シズ・ブラス、ロックンロール、ゴスペル、ヒップホップ (and More!)  
いかにしてアメリカ音楽は生まれ、形作られたのか?

世界を動かした大勢のアーティスト、音楽家、音楽家たち、文化のつながり、そして、ジャズ、ブルース、ソウル、カントリー、ロックンロール、ヒップホップ、そして、アメリカの音楽史のすべてが、この映画の中で、リアルタイムの映像調節など、独創的なテクノロジーで、驚くほど明るく鮮明な映像を実現。2D 作品も 3D 作品も、これまでにない美しさと臨場感で迫ってきます。音もすごいそうです～！！

1月11日から17日まで  
公開情報 上映時間回数が限られます。劇場へお問い合わせを  
109 シネマズ 二子玉川 ■一般・大 1,100 円、高校生以下・シニア 800 円名古屋 ■一般・大 1,300 円、高校生以下・シニア 1,000 円大阪 ■一般・大 1,300 円、高校生以下・シニア 1,000 円 03-5797-2325 昔の二子多摩川園跡  
成田 HUMAX シネマズ ■一般・大学生:1,100 円/高校生以下・シニア:800 円/プレミアムスカイシート:1,300 円(3D メガネ購入の方は別途メガネ代 100 円) 0476-20-2371  
(大阪、名古屋は 4K といってスクリーンが大きく音響設備も最新。成田も、大阪に次ぐ大きさで日本最大級)

## 話の核となるのは偉大なジャズ・ミュージシャン ルイ・アームストロングの驚くべき人生

映画は 20 世紀初頭に南部から、数百万人のアフリカ系アメリカ人が北部、東部、西部へと移住した大移動 (アフリカ系アメリカ人の大移動) の道のりを追いながら、そのルーツを辿り、ニューオーリンズの広場からシカゴの街路まで、デトロイトのヒッツヴィル (モータウンレコードの最初の本社のニックネーム) からナッシュビルのカントリーミュージックのメッカまで、そしてマンハッタンでのジャズとのロマンスからマイアミの熱狂なるサルサに至るまでアメリカ中を旅します。

### アカデミー・ドキュメンタリー賞

ノミネート 2 回のグレッグ・マクギリブレイ監督  
…私たちの祖先は、様々な場所からやって来て、異なる過去や文化を背景に、それらをミックスして、新たなコミュニティを形成し、新たなことにトライすることを学ばなければならませんでした。文化のぶつかり合いから、誰もが受け入れられる新たなアイデアや芸術形態が生まれるのです。



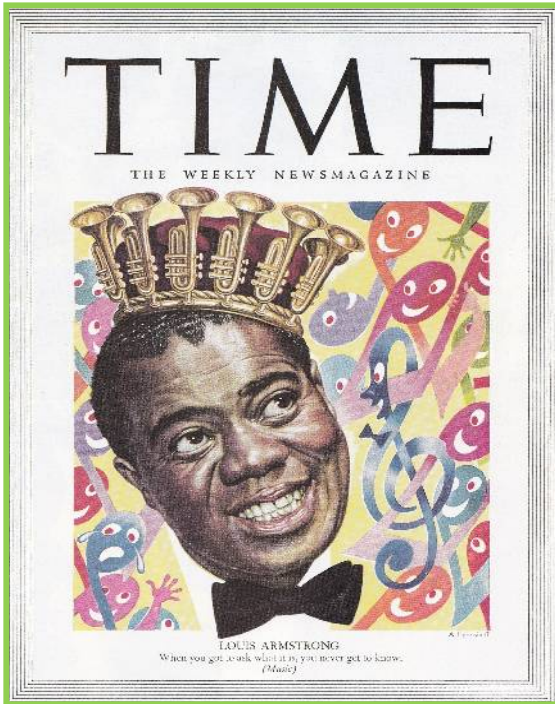
## IMAX 3D デジタル・シアターとは!

私たちの世代でいえば、昔懐かしき『シネラマ』の、進化系ですネ!!!! 曰く…明るく鮮明、驚くほどの高品質映像。2 台のデジタルプロジェクターの同時使用やリアルタイムの映像調節など、独創的なテクノロジーで驚くほど明るく鮮明な映像を実現。2D 作品も 3D 作品も、これまでにない美しさと臨場感で迫ってきます。音もすごいそうです～！！ 1月11日から17日まで  
公開情報 上映時間回数が限られます。劇場へお問い合わせを  
109 シネマズ 二子玉川 ■一般・大 1,100 円、高校生以下・シニア 800 円名古屋 ■一般・大 1,300 円、高校生以下・シニア 1,000 円大阪 ■一般・大 1,300 円、高校生以下・シニア 1,000 円 03-5797-2325 昔の二子多摩川園跡  
成田 HUMAX シネマズ ■一般・大学生:1,100 円/高校生以下・シニア:800 円/プレミアムスカイシート:1,300 円(3D メガネ購入の方は別途メガネ代 100 円) 0476-20-2371  
(大阪、名古屋は 4K といってスクリーンが大きく音響設備も最新。成田も、大阪に次ぐ大きさで日本最大級)

## 世界の音を変えた奴隷たち 綿花畑のブルーノート

本作の構成として、奴隷貿易とアームストロングの話しから始めることが重要でした。アームストロングの祖先たちは選択の余地なくルイジアナ州に連れて行かれました。奴隷制度が人命を奪い、家族を引き裂き、コミュニティの文化を解体した時、音楽が家族の絆をつなぎとめたのです。奴隷は抑圧者に反抗するため、メッセージを伝えるため、抑制された感情、思想や希望を表現するため、そして綿花畑で苦難に満ちた仕事を達成するため、歌を使って即興的な方法を行いました。この国の最も醜い汚点から生じた音楽が、逆説的に、この国の音楽文化を深く、豊かにし、変革し、再定義するようになりました。

奴隷音楽を特徴付けるブルーノートもしくは「曲がった」音符、つまり自然の音階にはない微音符が、ブルース、ジャズ、ロック、そして20世紀以降のすべてのサウンドスケープの中心になったのです。



1949年2月21日 まだ人種差別の強い時代 タイム誌の表紙に！

### アメリカ音楽の原点を探して

#### 一プロダクション・ノートより

早い時期にマクギリブレイ・フリーマンの映画製作者たちは、伝説的ジャズ・ミュージシャンのルイ・アームストロングが、アメリカ音楽の旅において欠かすことのできない存在であることを見極めていました。

19世紀から20世紀という変わり目、極度の貧困の中、奴隷の孫として生まれ、アームストロングは、ニューオーリンズのストーリーヴィル地区で育ちました。そこでは、幅広い音楽形式に触れることができましたが、特に、元奴隷だった祖母が彼を連れて行った教会で、ゴスペル音楽に触れました。少年時代は、お金を稼ぐために街角に立って歌を歌い、黒人少年院でコルネットを演奏することを学びました。1922年21才で、アームストロングは、アフリカ系アメリカ人大移動の波に加わりシカゴに移住。そこで彼の無限の想像力が、冒険的なソロとブルース調の表現法でジャズに革命を起こし、アームストロングを20世紀における最も影響を与えた音楽家の一人に変身させました。その後、40年代にニューヨークを移り、戦時中のアメリカを元気付けたビッグバンド時代の活気溢れた精神に影響を与えました。

当時、世紀の変わり目で、アメリカのほとんどは依然として人種問題で分離されていましたが、彼があまりにも偉大なエンターテイナーだったことで、ジャズは全人種のアメリカ人に開放されました。それは容易ではなかったに違いありませんが、彼は戦わなければならなかったし、突き進まなければならなかったのです。

### 人種をつないだサッチモ大使

サッチモが果たしたもっとも重要な役割、、、音楽を通してのアンバサダー！について、見事に、映画『アメリカン・ミュージック・ジャーニー』の監督さんや主役のアロー・ブラックが、言い当てています！

『1920年代後半、当時有色人種ということで受け入れられないであろう一般家庭に彼のレコードは入り込んだんです。未来を変えるにあたって非常に重要な出来事だったんです。』

『アメリカのほとんどは、依然として人種問題で分離されていましたが、彼があまりに偉大なエンターテイナーだったことで、ジャズは全人種のアメリカ人に解放されました、、、。』

#### 湯川れい子さん(音楽評論、作詞)

『とても簡潔で短い映画だが、世界に影響を与えたアメリカ音楽の今と昔を、実に解りやすく魅力的にみせてくれる。特にルイ・アームストロングとエルビス・プレスリーの映像が貴重だ。』

#### 在日米国大使館 文化・交流担当官

#### マイケル・ターナーさん

『アメリカの素晴らしい音楽遺産を学べる最高の映画です。この映画を観た誰もが、アメリカ音楽を肌で感じる旅に出たいという思いに駆られるでしょう。』

## サッチモ、ちょっといい話 サッチモのクリスマスツリー

——外山喜雄

一生に数えられないほどのレコーディングを残したサッチモ。彼の最後のレコーディングとなったのは、1971年2月26日ニューヨーク、コロナの自宅で録音された詩の朗読、“ザ・ナイト・ビフォア・クリスマス”。自家製の録音で音質は悪いが、最近ではいくつかのCDに収録されるようになった。

アメリカ人なら誰でも知っているこの詩は、クリスマス・イブの出来事を美しい韻をふんで詠った名作で、サッチモが世界中の子供たちに語りかけるような、あの優しさで淡々と語っている。体の衰えを感じながら、死の数ヶ月前にこの詩の朗読を吹き込んだサッチモの心には、約30年前のクリスマスの出来事が去来していたのかもしれない。

サッチモが最愛のルシール夫人と結ばれたのは1942年のことだった。

その年、新婚のふたりは一緒に演奏旅行に出かけ、クリスマスを旅先で迎えた。

クリスマスの日、ルシール夫人は夫を驚かせようとコンサート会場を抜け出し、ホテルの部屋にこっそり、小さなクリスマスツリーを用意した。サッチモは部屋に帰ると、驚き、目を輝かせ、子供のように喜んだ。

その夜、夜が更けても、いつまでもサッチモは寝ようとはしない。いつまで経っても小さなツリーをあちらから見たり、こちらから見たり、小さな飾りにそっと触れてみたり。

ベッドの裾にうつぶせになり、両頬を肘で支えながら、まるで赤ん坊のようにツリーの色とりどりの小さな明かりや飾りに見入っているサッチモ。不思議に思ったルシールは、どうしたのですかと尋ねた。するとサッチモはこう言ったのである。

「だって、ハニー！ これは僕の初めてのクリスマス・ツリーなんだもの……」

新婚のルシールが気を利かせて部屋に飾ったクリスマス・ツリーは、なんと、極貧の家に生まれ、子供時代はツリーどころではなかったサッチモが、41才にして初めて持った、“マイ・クリスマスツリー”、..、だったのである。

次の日の朝、ホテルをチェックアウトするときも、夫が言い張るのでルシールはツリーを梱包し、次のホテルでまた包みを開け、このツリーはサッチモ・オールスターズとともに一週間ほど旅したという。

「生きている木なんだから、もう枯れてきているでしょう。捨てましょう」というルシールの言葉に、最後はサッチモも渋々従ったという。

赤貧を経験したサッチモ。



“ナイト・ビフォア・クリスマス”も、“ワット・ア・ワンダフル・ワールド”も、どん底から這い上がってきた彼にしか解らない苦労や喜び、感謝の気持ち、そして人々への大きな愛に裏打ちされているような気がする。

世界中の人々の心を打つわけである。

## ナイト・ビフォー・クリスマス

“The Night Before Christmas”は、欧米では子供から大人まで誰もが知ってる詩。1823年新聞に投稿されて以来有名になり、アメリカを中心にクリスマスの時期に家庭、学校、テレビやラジオ等で広く朗読されている。

トナカイのそり、プレゼントを持ったサンタさん、煙突から入ってくる、など、韻をふんだ可愛い詩で、今のサンタとクリスマスのイメージのもととなった原点。イエス・キリストの誕生日を祝うクリスマスは日本で言えばお盆みたいなもので、お盆にお墓参りするのと同じように、欧米の人たちはクリスマス日に家族が集い、教会へ行きお祈りをする。

そういった視点を持ちながらサッチモやエラのクリスマス・ソングを聴くと彼らが歌うクリスマス・ソングはうわべだけのものじゃない気がする。

神様に歌を捧げるといふ部分が少なからずあるのでしょう。心の底からクリスマス・ソングを歌ってるように感じます。



日本ルイ・アームストロング協会クリスマスパーティーへのお誘い  
2018年12月23日(日)1時開宴 ハブ新浦安店 一般6500円 会員6000円  
お申込み:047-351-4464 saints@js9.so-net.ne.jp 12月21日まで

## 故 小泉良夫さんを偲ぶ 浅草HUB特別ジャズライブ



WJF理事で、会報をご担当下さった小泉さんと奥様、ご子息に捧げるライブが12月2日(日)の午後、浅草HUBで開催されました。当日は、7月2日に亡くなられたちょうど5

回目の月命日にあたり、故人とゆかりの深い多くの方々にお集まりいただきました。偲ぶ会は、永い間小泉さんとコンビを組んで来られました山口義憲理事(編集長)の司会、セインツのメモリーズ・オブ・ユーでスタート。



富子夫人から、故人は楽しいことが好きだったので、今日は明るい会にして欲しいとの希望もあり、悲しみの中にも出席者は軽食とアルコールを戴きながら故人との楽しい思い出話に花を咲かせていました。



奥村理事(交友の深かった理事会の名誉顧問である中村宏先生が風邪で欠席された為)の献杯の挨拶の後、外山ご夫妻から小泉さんとの数多くの思い出や今日まで日本ルイ・アームストロング協会があるのは故人のお蔭と深い感謝の気持ちをスクリーンを通じてご紹介くださいました。

8月のニューオリンズでのサッチモ・サマーフェストの折には、小泉さんのご遺骨の一部を外山さんのご両親のご遺骨とともにミシシッピー川に散骨なされたこと、またその



際思いがけなく日本人で最初の『スピリッツ・オブ・サッチモ・アワード』を受賞することが出来たのも、永年の会員の皆様のご支援と、小泉さんの情報発信のお蔭とのお話もありました。

ステージの脇には、遺影とともに小泉さんが参加された数回のニューオリンズ旅行、日米青少年交流の多くの写真や途中で筆を下ろされたWJF通信100号記念誌が飾られていました。

小泉さんがお好きだった曲、ジャスト・ア・リトル・ホワイル・トゥー・ステイ・ヒア、セシボン、テネシーワルツ、セント

ジェームス病院などが演奏された後、産経新聞・夕刊フジのお仲間からご披露された故人の思い出話などが(永六輔さんに似ていたのでロクさんと呼ばれていたそうです)会場の笑いを誘っていました。

また、そっくりのお兄様武衡(たけひろ)さんから『良夫は、あの世に逝ってしまったが、そこは本当に楽しいところだですよ！誰もここに2度と帰ってこないから』とユーモアを込めたお話がありました。

この浅草HUBは、以前小泉さんが従兄弟会を開催して名手鈴木孝二さんから伝授されたクラリネットをマスター(??)して熱演された場所だそうです。

ライブの終盤に掛かると、会員の松本隆一さんのボーカル、渋井誠さんのハーモニカ、渡辺研介さんのトランペットなどの飛び入り演奏で、会が大いに盛り上がりました。

また、外山さんとセインツの小泉さんのいる天国に届けよとばかりの讚美歌、AMENの演奏、続いて『聖者の行進』を参加者が手に手に傘をとりセカンドラインを踊りながら小泉さんを偲びました。



最後に、ご長男の厚之さんから富子夫人に代わって故人の思い出話と本日のお礼のご挨拶がありました。

小泉さんがデザインしたコースター、会員の水越有造さんからご寄付のあったサッチモ金太郎飴、ご自身が感銘を受けた言葉集、ご遺族からのお礼の図書券などのお土産お渡ししてお開きになりました。



### 《小泉さんが感銘を受けた言葉の一部》

\*『明日死ぬかのように生きよ 永遠に生きるかのように学べ』

…インド独立の父マハトマ・ガンジー

\*『たとえ明日 地球が減びるとも 君は今日 リンゴの木を植える』 …ドイツ詩人 ステファン・ゲオルゲ

\*『悪いな 先に行かせてもらおうぜ』

…ジャズサクソ奏者 レスター・ヤング

合掌 (レポート 理事 奥村清文 写真:相馬威宜)

ジョージ・ルイス、マハリア・ジャクソンも歌った『ジャスト・ア・リトル・ホワイル・トゥー・ステイ・ヒア』の歌詞と訳も残されました。またの機会にご紹介します。

**前田憲男さん ご逝去**  
**ありがとうございました！ 合掌**

日本ルイ・アームストロング協会15周年以来、何度もパーティー、コンサートのご出演いただき、会員の皆さまにも親しくしていただいた前田憲男さんが25日午後8時13分、肺炎のため死去した。83歳でした。「11PM」「ミュージックフェア」など数々のテレビ番組の音楽を手がけたトップ・ジャズピアニスト・作・編曲家。12月4日5日青山葬儀所でのご葬儀には、ジャズ、クラシック、芸能界他多くの方々が参列。加山雄三、中尾ミエ、今陽子各氏他各界からの顔が見られ『前田憲男さんの世界』のとてつもない広さを物語っていた。



WJF15周年以来、21周年パーティー、紀尾井ホールでの『サッチモの世界』(写真左)、ジャズ大賞受賞記念のヤマハホール『デクシーセイインツの素敵な仲間たち』コンサートにゲスト出演していただいた。この夏は奥田英人とブルースカイの奥田さんプロデュースの恒例帝国ホテル『イムペリアル・ジャズ』でもお元気なお姿を拝見したばかり。本当にやさしい素敵な、尊敬する大きなスケールのジャズマンでした。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。



インペリアルジャズ2018帝国ホテル記者会見 前列右から2人目前田さん

会となりしました。(山)

**ご寄付と嬉しいお手紙**

**嬉しいお便り**

◆柴田昌男さん(会員) 宇都宮スウィング・ハード・ジャズ・オーケストラ、名トランペッター

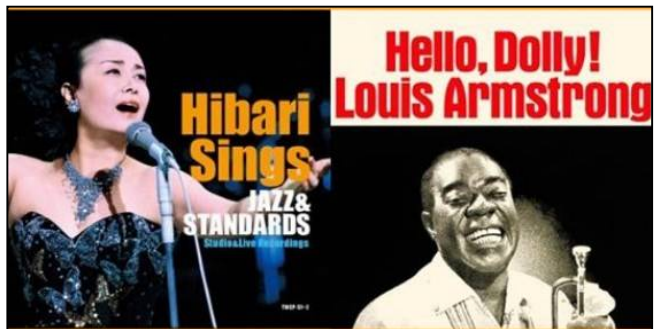
「おはようございます。ようやく、少し涼しくなっただけです。本日(8/29)下野新聞、一面に記事が掲載されましたので送付します。秋もジャズ祭りなどでお忙しい事と思います。ご自愛ください。」

外山より、、、ありがとうございます！！！！

下野新聞の『天声人語』なんだそうです！！！！雷が多い宇都宮にぴったりのコラム名！！取り上げていただき、感謝です。

**雷鳴抄**  
2018.8.29

ビートルズが米国デビューを果たしたのは1964年。次々とヒットを飛ばし、1位の座を独占した。その躍進に待ったをかけたのが、「サッチモ」の愛称で親しまれたジャズ界の巨匠ルイ・アームストロングである。62歳の偉業だった▼小中学校時代を宇都宮市で過ごしたトランペッター外山喜雄さん(74)は千葉県浦安市で過ごしたトランペッターの来日公演を聴きに行った際に楽屋まで押し掛け、愛用の楽器も吹かせてもらったという▼当時はまだ今のように警備が厳しくなかつたにせよ、あこがれの人は大学生の突然の訪問を嫌な顔一つせず迎えてくれた。外山さんはその時の優しいまなざしを、今も忘れられない▼卒業後はサッチモの生誕地ニューヨークで、本場の音楽を学んだ。ジャズを通して日米の草の根交流を続けたことが評価され、現地の音楽祭で先日、サッチモの名を冠した生涯功労賞が贈られた▼ステージのおはこは「この素晴らしい日本」や「聖者の行進」である。日本の第一人者ならではの名演奏は、宇都宮最大のジャズイベント「ミヤジャズイン」で毎年披露される▼「ジャズのスイングのように、古里のまちなみも楽しく、元気があつてほしい」。日本のサッチモが演奏に込めた、ジャズのまちなみ宇都宮への応援メッセージである。



次号 :ルイ・アームストロングが美空ひばりに残した手紙とレコード。素敵なキュンと来る記事ネットで発見。乞ご期待

**編集長から**

♪アーメン！ハレルヤ！と外山喜雄さんが客席に呼びかけ、客席の聴衆から♪アーメン！と応える「ゴール&レスポンス」が、最近の外山さんのライブで「神ライブ」といわれています。▼こ半年間で、筆者が目当たりしたライブは、7月の早稲田大学ニューオリ祭り、秋の新宿トラッド・ジャズ・フェスティバル、11月のジャズスポット「40周年記念パーティー」、12月の浅草ハブ 小泉良夫さんを偲ぶ会、いずれも外山さんのパフォーマンスは、ニューヨークで日曜日、パプティスト教会での黒人信者と牧師のミサのようで、他のライブでも絶賛されているとのこと。▼浅草ハブでは♪アーメン！ハレルヤ！から演奏は聖者の行進となつて場内をパレード、セカンドライオンが傘を持って踊るというニューオリンズのパレードが日本にワープするライブなのです。故小泉さんも聖者の列に加わっているのだからなあ、そうだ11月25日に逝去されたピアノの前田憲男さんも聖者の行進に加わっておられるのだから、楽器は何を担当しているのかなあ？と陽気なパレードに個人を偲ぶ、ニューオリンズらしい、心温まる会となりました。(山)